資料４

西脇市立西脇病院経営基本計画

― 実施計画（案） ―

令和８年８月

1　策定の趣旨

近隣病院の統合や医療（介護）体制の改革など、西脇病院を取り巻く環境が変化するなか、将来を見据えつつ令和5年度からの5年間についての経営計画を策定し、今後の政策の展開方針を示しています。令和9年度を目標とする基本計画に掲げる政策・施策の推進を図るため、具体的に取り組む事業内容や活動方針を体系的に取りまとめ、実施計画を策定しました。

2　実施計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。毎年度、前年度の実績を踏まえ、当該年度の具体的計画と数値目標を設定した実施計画を策定します。

3　実施計画の体系図

事業運営の目標	施策	No.
【経営の効率化】		
診療機能の強化	特色ある医療の提供	
	がん治療	1
	脳卒中治療	2
	糖尿病治療	3
	精神疾患の医療体制の構築	4
	救急・災害への対応強化	5
	チーム医療の推進	6
	医療安全	7
	新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組	
	院内感染対策の徹底、クラスター発生時の対応方針の共有等	8
経営基盤の効率化等	収支計画	
	入院収益の確保	9
	外来収益の確保	10
	検診・健診への積極的な取組	11
	収入の確実な確保	12
	給与費、材料費、経費の削減	13
	適切な投資・施設整備管理	14
	医療技術部門の強化	
	薬剤部	15
	検査部	16
	放射線部	17
	リハビリテーション部	18
	栄養部	19
	臨床工学部	20
	患者満足度の向上	21
人材の確保・育成	医師・看護師等の確保	22
	医療技術職員の確保	23
	医師の働き方改革への対応	24
	医療分析・経営分析に向けた職員の確保	25
	研修・研修制度の充実及び意欲向上	26
【再編ネットワーク】		
地域との連携、交流の強化	役割・機能の最適化と連携強化	27
	地域医療を守る活動の支援	28
	情報発信の強化	29

No.1　特色ある医療の提供
がん治療

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
がん診療連携拠点病院の継続 集学的治療及び緩和ケア提供体制の整備、標準的治療等の提供を行うとともに、地域医療機関等との連携を構築する。 令和6年4月1日から、「がん診療連携拠点病院に準ずる病院」となったが、引き続き、拠点要件を確認しながら取り組んでいく。	拠点病院更新。拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認
緩和ケア食の構築 緩和ケアチーム介入となった患者に対し、患者のニーズに応じた食事提供が行えるよう食種の構築を目指す。	委託業者の更新があり、未実施。	緩和ケア食が導入できるよう、食種を整理する。	緩和ケア食の調整は未実施。	現状の食種で対応し、必要に応じて随時検討		
がん相談支援センター機能の充実 診断・告知時から患者ニーズを把握し、院内職員の連携により早期から積極的な相談支援を行う。患者に応じたがん情報や治療と仕事の両立支援、アピアランスケアに関する情報提供等を行い、がん患者が社会と繋がる体制を整備する。	診断、治療早期から院内職員と連携し積極的な相談支援、必要時社労士による相談の場を提供を実施。	診断、治療早期から院内職員と連携し積極的な相談支援、必要時治療と仕事の両立支援の情報提供を実施。	診断、治療早期から院内職員と連携し積極的な相談支援、必要時アピアランスケアに関する情報提供を実施。	患者向けガイドライン冊子等の更新を行い、細やかな情報提供を行った。	早期から院内職員と連携し積極的な相談支援、患者に応じた必要な情報提供を実施。	早期から院内職員と連携し積極的な相談支援、患者に応じた必要な情報提供を実施。
病診連携の強化 がん地域連携クリニカルパスを増やし、病診連携の強化を図る。	パス件数：11件	パス件数：13件	パス件数：14件	パス件数：11件	院内周知、入力効率化を実施。	院内周知、入力効率化を実施
人間ドックのオプション検査等 人間ドックのオプション検査化に伴い、PR強化による受診者数の増加を図る。	健診システムの更新	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新	オプション検査を追加	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新
がん関連認定看護師等の取得 緩和ケア、疼痛緩和などがん関連の看護ケアの充実を図り、がん診療拠点病院として積極的ながん治療を行う。 資格取得者、経験者の再雇用により即戦力の強化。					資格取得者1名雇用	資格取得者1名雇用
専門的ながん治療の提供 専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。 放射線治療の推奨。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
新入院がん患者数	（人）	1,092	920	1,114	950	1,100	1,100
放射線治療患者数	（人）	137	104	76	83	100	100
放射線治療件数	（件）	2,230	1,688	1,321	1,367	1,300	1,300
外来化学療法延患者数	（人）	1,418	1,467	1,286	927	1,300	1,300
がん患者リハビリ単位数	（件）	128	163	53	62	50	50
子宮がん検診	（人）	401	442	482	499	500	500
肺がん検診	（人）	106	87	98	83	110	110
乳がん検診	（人）	775	799	818	805	800	800
ABC検査	（人）	38	34	41	58	60	60
CT件数	（件）	15,617	15,527	15,157	14,408	14,500	14,500
MRI件数	（件）	5,581	5,346	4,969	4,783	4,000	4,600
RI件数	（件）	462	551	512	404	400	400
マンモグラフィ件数	（件）	1,410	1,474	1,468	1,429	1,350	1,350

No.2　特色ある医療の提供
脳卒中治療

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
クリニカルパスの効果的な運用 連携医療機関の回復期リハビリ病棟、療養型病棟への有効活用を行う。	連携件数82件	連携件数42件	連携件数63件	連携件数25件	連携件数30件	連携件数30件
3.0テスラMRIの活用 北播磨圏域の医療拠点病院として、脳血管疾患の機能強化を図る。	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働
専門医の育成 脳卒中の専門医を育成する。		育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備
脳卒中認定看護師の育成 脳卒中リハビリテーション認定看護師を育成する。			育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備
摂食嚥下障害認定看護師の育成 摂食嚥下障害看護認定看護師を育成する。			育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備
脳卒中の専門的治療の提供 脳卒中の専門的治療を提供する。	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する
早期からのリハビリテーションの介入			状態に応じた早期介入や複数介入を実施	状態に応じた早期介入や複数介入を実施	状態に応じた早期介入や複数介入を実施	状態に応じた早期介入や複数介入を実施

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
パスによる紹介件数	(件)	82	42	63	25	30	30
脳卒中（脳外科）入院件数	(件)	349	310	312	278	400	400
脳血管治療件数	(件)	96	100	88	70	150	150
脳血管リハビリ実施単位数(再掲)	(件)	34,394	40,046	40,927	41,500	45,150	45,150

No.3　特色ある医療の提供
糖尿病治療

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
高度で専門的な糖尿病診療の提供 1型糖尿病に対するインスリンポンプ療法やインスリン治療中患者に対する持続血糖モニタリングなどの高度専門的治療、また妊娠糖尿病などの特殊な糖尿病の管理。地域の基幹病院として医師会・行政と連携した取り組み（糖尿病対策協議会）	→	→	→	→	→	→
糖尿病教室 食に関する知識の普及に努める	糖尿病レターの作成	年1回開催、糖尿病レターの作成	年2回開催、糖尿病レターの作成	年1回開催	年1回開催	年1回開催
外来や予防指導の充実 糖尿病合併症外来や糖尿病透析予防指導において、医師・看護師等と連携し、患者に応じた適切な指導を行う。	→	→	→	→	→	→
糖尿病患者への栄養指導 入院患者：適切な食事提供 栄養指導依頼提案 外来患者：継続的な栄養指導	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。術前の血糖管理、栄養指導を実施。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。術前の栄養介入を継続し、術前血糖管理に努めた。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。術前の栄養介入を継続し、術前血糖管理に努めた。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案する。入院時の栄養指導を取り漏れなく実施する。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案する。入院時の栄養指導を取り漏れなく実施する。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案する。入院時の栄養指導を取り漏れなく実施する。
専門知識を持つスタッフの育成 糖尿病に関する認定栄養士を育成する。	兵庫県糖尿病療養指導士1名更新	兵庫県糖尿病療養指導士の育成	療養指導士取得は無。カンファレンス、研修など自己研鑽した。	兵庫県糖尿病療養指導士の育成カンファレンス、研修など自己研鑽に努める	兵庫県糖尿病療養指導士の育成カンファレンス、研修など自己研鑽に努める	兵庫県糖尿病療養指導士の育成カンファレンス、研修など自己研鑽に努める
糖尿病認定看護師の育成 糖尿病認定看護師を育成する。			育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備
血液浄化件数の維持 積極的な患者の受け入れを行い、安心安全な透析医療の充実を図る。また診療報酬の漏れがないように確実に取得していく。	個人用透析装置の運用をコロナ病棟で開始した。また透析における診療報酬報酬の見直しを図った。	安心安全な透析医療の充実を図った。	安心安全な透析医療の充実を図った。RO装置の新規機器更新を行った。	安心安全な透析医療の充実を図る。	安心安全な透析医療の充実を図る。	安心安全な透析医療の充実を図る。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 各科の診療ニーズに対応し、オンコールによる24時間体制で業務に取り組む。	個人透析を始め、各科の診療ニーズに対応した。	各科の診療ニーズに対応した。	各科の診療ニーズに対応する。夜間緊急透析時に個人用透析装置を使用できるように改善を行った。	各科の診療ニーズに対応する。	各科の診療ニーズに対応する。	各科の診療ニーズに対応する。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
インスリンポンプ療法患者数	（人）	10	10	11	9	13	14
持続血糖測定器使用患者数	（人）	87	86	90	72	95	95
入院血液浄化件数	（件）	879	1,124	890	1,088	900	900
外来血液浄化件数	（件）	6,115	6,536	6,235	5,760	6,000	6,000
栄養指導件数	（件）	2,026	1,820	1,768	1,972	1,800	1,800
NST介入件数(栄養サポートチーム)	（件）	1,134	874	930	973	1,100	1,100

No.4　特色ある医療の提供
精神疾患の医療体制の構築

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
認知症疾患医療センターの指定 認知症疾患における鑑別診断、地域における医療機関等の紹介、問題行動への対応についての相談受付などを実施する。 ※　令和7年3月31日付けで、認知症疾患医療センターの指定が終了。	→	→	→	－	－	－
	鑑別診断件数113	鑑別診断件数115	鑑別診断件数100			
精神科リエゾンチーム加算の算定 精神科リエゾンチーム加算の算定に向けたチームの結成を進める。	→	→	→	→	→	→
	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保
特定研修施設の指定 リエゾン専門医を目指す特定研修施設の指定を受け、スタッフを育成する。	→	→	→	→	→	→
がん患者の心のケア がん患者の心のケア（サイコオンコロジーの領域）	→	→	→	→	→	→

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
入院精神療法件数	（件）	348	382	428	374	400	400
認知症疾患に関する鑑別診断件数	（件）	113	115	100	－	－	－
専門医療相談件数	（件）	422	441	400	－	－	－

No.5　特色ある医療の提供
救急・災害への対応強化

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
災害備蓄品の確保 災害備蓄品（薬品、材料、食品）を3日分確保する。必要な数量・消費期限を定数管理し、更新等による経費負担を平準化する。	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新
DMATチームの充実 DMAT隊員の強化（人数増員、訓練・研修会参加）を図り、災害拠点病院として積極的に災害派遣を行う。	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成
医療救護班の充実 医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
災害訓練への参加	（件）	1	2	1	3	2	2
災害訓練の実施	（件）	1	1	1	1	1	1
救急搬送件数	（件）	3,148	3,687	3,206	3,340	3,500	3,500

No.6　チーム医療の推進

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
薬剤師の入院棟配置 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を図る。	人員増を見込めない中、引き続き再任用者には業務を継続いただく。また業務の効率化を推進し、業務の維持を図る。さらに人員の確保と育成を推進し、業務の安定と拡充を目指す。	再任用者2名の退職に伴う新たな病棟担当者への交代、また、退職者2名、育休者3名の代わりの人員の確保と育成に注力し、業務量の維持・推進を図る。そして、新しいシステムの導入により、更に業務の効率化を図る。	退職した再任用者2名と育休者2名の代わりの人員確保と、1月からの中途採用者の育成に注力し、新たに採用した調剤補助員2名とともに、最低限現在の業務量を維持し、その上で病棟業務の効率化と拡充を目指す。	6年度に退職した病棟担当再任用者の欠員1名と、7年度に退職した正規職員1名の人員を最低限確保、また、育休者2名の代わりの人員確保と育成の推進を図り、病棟業務の効率化と算定できる業務の拡充を目指す。	人員の確保と育成の推進を図り、病棟担当を増やすことで、病棟業務の効率化と算定できる業務の拡充を目指す。
周術期等の口腔機能の管理 周術期に専門的な口腔管理を行うことで、呼吸器系合併症の軽減や抗がん剤、放射線治療による粘膜病変を軽減する。手術周期、高齢者の誤嚥性肺炎の防止などを目的とした活動を推進する。		人材確保し、増患による業務拡大に対応	人材確保し、増患による業務拡大に対応	人材確保し、増患による業務拡大に対応	人材確保し、増患による業務拡大に対応	人材確保し、増患による業務拡大に対応
糖尿病教育チーム活動の推進 糖尿病透析予防指導による生活習慣病対策を推進する。医師会・西脇市と連携した糖尿病対策協議会での情報提供・協力			指導のための人員確保	指導のための人員確保	指導のための人員確保	指導のための人員確保
認定看護師の資格取得支援 より高い医療サービスを実現させるため、優秀なスタッフの育成に努めるとともに、認定取得を積極的に支援する。			育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備	育成と院内整備
臨床研修指導医の資格取得 厚労省が認定する臨床研修指導医講習を計画的に受講し、指導医数の充実を図る。	0人	0人	1人	1人	2人	2人
地域看護力の向上 地域看護の質向上と担保に向けた看護教育研修センターでの、充実した研修を提供する。年間12回以上の開催を目指す。	13回	13回	15回	13回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すとともに院外へ発信する。	12回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すとともに院外へ発信する。	12回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すとともに院外へ発信する。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
NST介入件数【再掲】 （栄養サポートチーム）	（件）	1,134	874	930	944	1,100	1,100
緩和ケア介入件数	（件）	50	51	43	53	50	50
褥瘡対策チーム介入件数	（件）	360	423	417	397	－	－
VAP介入件数 （人工呼吸器関連肺炎対策チーム）	（件）	106	74	110	84	－	－
ICT介入件数 （感染制御チーム）	（件）	1,215	919	870	748	－	－
認定看護師	（人）	0	0	0	0	1	1
臨床研修指導医	（人）	0	0	1	1	2	2

No.7　医療安全

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
医療事故の防止	→	→	→	→	→	→
医療安全文化の醸成 医療安全研修会を定期的に開催するとともに、インシデント報告の収集、報告数増加へ取組み、分析、再発防止策の策定を行い、安心で安全な医療の提供に努める。	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
インシデント報告件数	（件）	1,103	1,063	921	928	1,000	1,100
院内医療安全研修会開催件数	（件）	2	2	2	2	2	2

No.8　新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組
院内感染対策の徹底、クラスター発生時の対応方針の共有等

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
職員の感染予防 病院に勤務する職員にB型肝炎ワクチンやインフルエンザワクチンを予防接種することにより、職員への感染を未然に防ぐ。	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施
職員への病院感染症対策マニュアルの周知	→	→	→	→	→	→
新興感染症への備え 県との協議・協定を締結していく	→	→	→	→	→	→

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
院内感染対策研修会開催件数	（件）	2	2	2	2	2	2
感染対策委員会開催件数	（回）	12	12	12	17	12	12
入院後鼻腔MRSAスクリーニング陽性率	（%）	2.4	2.0	－	－	－	－
VAP介入件数（再掲） （人工呼吸器関連肺炎対策チーム）	（件）	106	74	110	84	－	－

No.9　収支計画
入院収益の確保

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
7対1入院基本料の維持継続 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する。	→ 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	→ 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する				
10対1入院基本料の維持継続 令和6年診療報酬改定により、10月から看護基準は10対1に移行。HCU加算病床の継続、休床している回復期リハビリテーション病床の稼働病床の増などに取り組む。			→ 10月から10対1 HCU加算病床継続 回復期リハ病床の稼働病床増	→ HCU加算病床継続	→ HCU加算病床継続 回復期リハ病床の稼働病床増	→ HCU加算病床継続
※ 急性期B入院基本料の取得 令和8年診療報酬改定により急性期Bをめざす。 看護基準は7対1					- - → 急性期Bをめざす	- - →
診療報酬改定への適切な対応 2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。	→ 診療報酬改定	→ 2年ごとに改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。	→ 診療報酬改定に対応した	→ 2年ごとに改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。	→ 診療報酬改定	→ 2年ごとに改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。
DPC分析 DPC分析データに基づく病院指標の作成と公開を行う。	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
1日平均入院患者数	（人）	257.7	269.4	270.5	259.3	282.0	282.0
病床稼働率	（%）	84.8	85.6	84.5	81.0	88.1	88.1
1人1日入院診療単価	（円）	54,022	52,800	52,876	53,269	54,812	55,360

No.10　収支計画
外来収益の確保

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
救急患者の積極的な受入れ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。
専門・特殊外来の設置 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者のニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
1日平均外来患者数	(人)	477.1	437.9	425.7	423.6	467.0	500.0
1人1日外来診療単価	(円)	15,780	17,243	17,111	17,040	17,943	18,120
救急搬送件数(再掲)	(件)	3,148	3,687	3,206	3,340	3,500	3,500

No.11　収支計画
検診・健診への積極的な取組

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
人間ドックのレベルアップ 受診者が安心して健診を受けられるよう人間ドック健診施設機能評価の認定取得を目指す。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。
オプション検査の充実 必要な健診が受けられるよう検査内容の充実を目指す。	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする
利便性の向上（受診枠の見直し） 使用する医療機器、検査担当技師等を増やし、受診枠の拡大に向けた見直しを計画する。	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
成人病検診	（人）	1,019	1,079	1,133	1,285	1,200	1,200
一泊人間ドック	（人）	38	36	38	32	50	50
日帰り人間ドック	（人）	497	557	555	617	630	630
脳ドック	（人）	134	140	161	140	160	160
乳腺ドック	（人）	17	21	22	18	25	25
乳児・新生児健診	（人）	185	161	139	150	200	200
妊婦健診	（人）	1,637	1,344	1,378	1,276	1,300	1,300

No.12　収支計画
収入の確実な確保

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
職員夜間訪問徴収の実施 定期的に夜間訪問により徴収する。	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼
院内診療報酬研修会の実施 院外講師及び医事課職員による職員研修会を実施する。	レセプト査定・返戻のフィードバック	診療報酬改定に向けた情報提供	診療報酬改定に向けた情報提供	診療報酬改定に向けた情報提供	レセプト査定・返戻のフィードバック	診療報酬改定に向けた情報提供

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
過年度個人未収金	（千円）	39,917	39,061	38,831	38,050	37,000	36,000
院内診療報酬研修会開催件数	（回）	2	2	1	2	2	2

No.13　収支計画
給与費、材料費、経費の削減

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
材料費(薬品費)比率の削減 見積もり合わせの手法を協議し、削減に努める。		見積もり合わせの手法を整理しマニュアル化する。	マニュアルにより実行する。結果について検証する。	手法を見直す。結果について検証する。	手法を見直す。結果について検証する。	手法を見直す。結果について検証する。
材料費(診療材料費)比率の削減 SPDの効率化を進める。	見積合わせにより、1社を選定(3年契約)	同等品切替を診療材料委員会に提案する。	同等品切替を診療材料委員会に提案	見積合わせにより、1社を選定(3年契約)	同種同効品切替を診療材料委員会に提案する。 手法を見直す。結果について検証する。	同種同効品切替を診療材料委員会に提案する。 手法を見直す。結果について検証する。
経費比率の削減 光熱水費等、より効率的な削減・節減に努める。		委託契約の見直しを行う。	職員提案の実施と次年度予算へ反映する。	職員提案の募集と次年度予算へ反映する。	職員提案の募集と次年度予算へ反映する。	職員提案の募集と次年度予算へ反映する。
給与費比率の削減 収益効果の高い人材を確保する。						

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
材料費比率(医業収益対比)	(%)	25.3	24.9	25.0	24.5	23.3	23.0
経費比率(医業収益対比)	(%)	22.6	21.9	22.4	24.6	24.3	23.6
給与費比率(医業収益対比)	(%)	64.1	63.0	64.4	67.6	62.7	61.2

No.14　適切な投資・施設整備管理

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
電子カルテシステムの更新 現システムの問題点を洗い出すとともに各社新機種の性能比較などを十分に行い、よりよい電子カルテシステム環境の構築を目指す。	更新に向けたプロポーザル	定例会を行う 更新	定例会を行う	定例会を行う	定例会を行う	定例会を行う
医療機器整備計画の策定 専門性の高い高度医療機器や患者ニーズの高い各種検査機器を計画的に導入することにより、よりよい医療を提供する。						
資産の効率的な運用 利用頻度の少ない一戸建て医師公舎の運用を検討する。		空き家バンクに登録	空き家バンクに登録	空き家バンクに登録	空き家バンクに登録	空き家バンクに登録

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
機器整備金額(システム)	千円	314,678	1,152,934	153,912	150,722	265,000	150,000
機器整備金額(機器)	千円						

No.15　医療技術部門の強化
薬剤部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
薬剤師の入院棟配置【再掲】 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を目指す	人員増を見込めない中、引き続き再任用者には業務を継続いただく。また業務の効率化を推進し、業務の維持を図る。さらに人員の確保と育成を推進し、業務の安定と拡充を目指す。	再任用者2名の退職に伴う新たな病棟担当者への交代、また、退職者2名、育休者3名の代わりの人員の確保と育成に注力し、業務量の維持・推進を図る。そして、新しいシステムの導入により、更に業務の効率化を図る。	退職した再任用者2名と育休者2名の代わりの人員確保と、1月からの中途採用者の育成に注力し、新たに採用した調剤補助員2名とともに、最低限現在の業務量を維持し、その上で病棟業務の効率化と拡充を目指す。	6年度に退職した病棟担当再任用者の欠員1名と、7年度に退職した正規職員1名の人員を最低限確保、また、育休者2名の代わりの人員確保と育成の推進を図り、病棟業務の効率化と算定できる業務の拡充を目指す。	人員の確保と育成の推進を図り、病棟担当を増やすことで、病棟業務の効率化と算定できる業務の拡充を目指す。
抗がん剤調製の100%実施の維持 急激な件数増加に対処するため、休日対応も含め、調製人員の増員・増強を図る。	確かな技術を継承できる調製者の育成。殺細胞性抗がん剤調製時でのクローズドシステム導入と全館的な抗がん剤の被曝低減策を実施し、評価を行った。	確かな技術を安定して使えるよう調製者のスキルアップを目指す。全館的な抗がん剤被曝の低減策を実施し、評価を行った。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を実施し、評価を行った。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。	病棟担当者離職にあたり、病棟業務を維持するための配置転換による抗がん剤調製者減に対し、中途採用者の起用と、確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。投与時閉鎖式接続器具使用加算を新規取得。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。
後発医薬品の採用促進 数量ベースでの増加を目指すため、後発医薬品の採用を進める、高額医薬品については後発医薬品が発売されれば変更を行う。	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を4か月維持できた。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を11か月維持し、加算1取得を11か月維持できた。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を堅持し、継続して加算1取得ができた。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を堅持し、カットオフ値を50%以上に引き上げて、継続して加算1取得を目指す。	地域支援・医薬品供給対応体制加算1の要件である後発医薬品の占有率90%以上を堅持し、その他施設基準を整備する事で、継続して加算1取得を目指す。	地域支援・医薬品供給対応体制加算1の要件である後発医薬品の占有率90%以上を堅持し、その他施設基準を整備する事で、継続して加算1取得を目指す。
医薬品情報等の情報提供強化 イントラネットを利用した情報発信に加え、メール等による発信にも取り組む。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した。	CoMedixまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品の情報、出荷状況等を発信。また、新規採用薬等に対する研修会・説明会等を企画・実施する。	CoMedixまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品の情報、出荷状況等を発信。また、新規採用薬等に対する研修会・説明会等を企画・実施する。	CoMedixまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品の情報、出荷状況等を発信。また、新規採用薬等に対する研修会・説明会等を企画・実施する。
ポリファーマシー対策 薬物有害事象のリスク低下や服薬アドヒアランス向上、薬剤費の削減を目指す。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、老年内科と連携し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、老年内科と連携し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、老年内科と連携し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
ハイリスク指導件数	（件）	5,098	5,454	4,357	4,310	4,500	4,500
その他指導件数	（件）	4,714	5,430	6,326	6,719	6,500	6,500
薬剤師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	18	18	20	19	18	18
後発医薬品使用率	（%）	90	92	92	93	93	93

No.16　医療技術部門の強化
検査部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
検査技師の人材確保・育成とスキルアップ 技師確保と育成、技師の専門性あるスキルアップ。	新人技師一人増加と人材育成。再雇用者の業務継続。エコー検査士、認定輸血検査士ほか認定資格の取得。エコー技師、細胞検査士のスキルアップ。骨髄検査対応技師の充実。	新人技師の育成。各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。エコー担当者の養成。ベテラン退職者からのスムーズな業務引き継ぎ。聴力検査の担当者を増やす。	各種資格の取得。エコー担当者の養成。骨髄検査や人工授精準備対応の技師を増やす	各種資格の取得。エコー担当者の養成。骨髄検査や人工授精準備対応の技師を増やす
各科からの検査要求対応 各種、臨床からの要求ある検査への対応。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。B-2MG検査開始。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。迅速細胞診断に積極的に対応。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。迅速細胞診断に積極的に対応。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。エコー下腎生検の検体処理を行う。エコーのエラストグラフィ、脂肪減衰測定、CGMS(持続血糖測定装置)の穿刺を開始	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。迅速細胞診断に積極的に対応。心臓エコーの充実（ハンドグリップ負荷の実施）	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。迅速細胞診断に積極的に対応。心臓エコーの充実（小児）
院内チーム医療への参画と協力 チーム医療：感染管理、栄養サポート、糖尿病療法指導等への参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。肝炎ウイルス陽性者を毎月報告。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
超音波検査数	(件)	8,798	8,009	8,109	8,032	9,000	8,200
肺機能検査数	(件)	1,642	1,710	1,816	1,794	1,800	1,850
脳波検査数	(件)	180	163	155	126	150	160
ABI検査数	(件)	501	442	419	361	400	450
心電図検査数	(件)	8,991	9,279	9,223	9,103	9,300	9,200
臨床検査技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	(人)	18	19	20	19	19	19

№17　医療技術部門の強化
放射線部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
3.0テスラMRIの運用 地域の医療機関との連携を強化し、院外からの受託件数を増やし、当日緊急検査にも迅速に対応する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取組。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取組。
スタッフの育成 認定資格の取得による技術力の向上を目指す。	新人技師の育成とモダリテイー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリテイー専任技師の育成。	新人技師の育成。告示研修参加と認定資格取得への取り組み。	新人技師の育成.認定資格取得によるモダリテイー専任技師の育成。	新人技師の育成.認定資格取得によるモダリテイー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリテイー専任技師の育成。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
アンギオ件数	(件)	304	275	275	209	200	200
骨測定量件数	(件)	1,238	1,324	1,343	1,444	1,300	1,300
一般撮影系件数	(件)	22,921	23,074	23,196	23,232	23,000	23,000
CT 件数(再掲)	(件)	15,617	15,527	15,157	14,408	14,500	14,500
MRI 件数(再掲)	(件)	5,581	5,346	4,969	4,783	4,000	4,600
RI 件数(再掲)	(件)	462	551	512	404	400	400
マンモ件数(再掲)	(件)	1,410	1,474	1,468	1,429	1,350	1,350
放射線治療患者数(再掲)	(人)	137	104	76	83	100	100
放射線治療件数(再掲)	(件)	2,230	1,688	1,321	1,367	1,300	1,300
診療放射線技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	15	15	14	14	15	15

No.18　医療技術部門の強化
リハビリテーション部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
施設基準の維持 地域包括ケア病棟の施設基準であるリハビリ2単位以上を維持する。 回復期リハビリテーション病棟施設基準の維持。（増床への対応等）	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。
充実したリハビリの提供 1日1人取得目標単位数を18単位とする。	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位
365日リハビリに向けた体制づくり 継続的な入院リハビリ治療を充実する。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。
スタッフの育成 特に診療報酬に影響する資格取得に努める（例：骨粗鬆症マネージャー、リンパ浮腫複合的治療研修等。その他、当院のチーム医療に関連する糖尿病療養指導士、呼吸療法認定士、腎臓リハビリなどの資格取得を行ったり、当院リハビリ対象患者に関連する自己研鑽に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。
院内外に向けたリハビリ啓発活動（地域リハビリテーション活動の強化） 地域支援事業への職員派遣（フレイル予防訪問指導事業、住宅改修・福祉用具適正化事業、認知症初期集中支援チーム員会議、自立支援型地域ケア会議、高齢者運動指導事業） 地域住民に向けた研修会の講師。 院内でのリハビリ関連の実技指導や勉強会開催。（減量支援外来　妊婦教室など）	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
脳血管疾患リハ単位数	（件）	34,394	40,046	40,927	42,448	45,500	.47,000
廃用症候群リハ単位数	（件）	21,527	23,263	19,108	20,627	22,500	24,000
運動器リハ単位数	（件）	29,430	28,377	25,781	34,158	37,500	39,000
呼吸器リハ単位数	（件）	6,851	8,384	6,849	8,940	9,550	9,700
摂食療法リハ単位数	（件）	1,299	1,358	951	1,158	1,250	1,320
がん患者リハ単位数	（件）	128	163	53	62	70	70
理学療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	16	17	18	18	18	19
作業療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	8	9	10	10	12	12
言語聴覚士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	6	6	5	6	6	6

No.19　医療技術部門の強化
栄養部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
専門知識を持つスタッフの育成・スキルアップ 研修会及び勉強会へ参加し、専門的技術の習得をめざす。糖尿病療養指導士、NST専門療法士、がん専門認定栄養士などの育成を行う。	兵庫県糖尿病療養指導士更新研修参加。周術期、嚥下食、早期栄養介入について研修参加。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。	カーボカウント研修1名参加。NST40時間研修1名参加。	各種研修への参加によりスキルアップを図る。	各種研修への参加によりスキルアップを図る。	各種研修への参加によりスキルアップを図る。
食事満足度の向上 食事満足度アンケートの実施により、嗜好に応じた食事内容の検討。院内基準の定期的な見直しにより、食事満足度の向上を図る。	アンケートを年2回実施。緩和ケア食の検討・導入、院内栄養基準の見直しを実施。	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討。	アンケート年1回実施。一口大食検討、令和7年度導入に向けて調整した。STと連携し、病院食を嚥下ピラミッドにあてはめ、多職種と共有。	アンケート年1回実施。各食種の見直し・検討。一口大食より、ソフト食のニーズがあり、ソフト食の内容検討、給食会社との調整。	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討。ソフト食の導入。	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討。
チーム医療への参画・協力 病棟担当制により、多職種との連携を強化し、患者サービス及び予防医療の普及をめざす。	病棟担当制の維持、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制の維持、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制の維持、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
栄養指導件数	（件）	2,026	1,820	1,768	2,036	1,800	1,800
糖尿病教室	（回）	0	1	2	1	1	1
糖尿病透析予防指導管理料	（件）	18	36	30	35	35	35
NST介入件数 （栄養サポートチーム）	（件）	1,134	874	930	944	1,100	1,100
管理栄養士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	6	6	6	6	6	6
栄養情報提供件数	（件）				232	200	200

No.20 医療技術部門の強化
臨床工学部

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
スタッフの育成 各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。各科の臨床業務に必要な技術取得のため、学会・研修・勉強会へ参加する。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。周術期管理チーム認定資格取得の為講習会に参加した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。周術期管理チーム認定資格2名取得した。新規購入輸液ポンプのメンテナンス講習を受講した。人工呼吸器の安全使用に伴う勉強会を実施した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。新人職員1名入職し、臨床業務及び機器管理業務の教育を行う。臨床工学技士免許の業務範囲拡大のための研修を1名が取得した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。
ME機器保守管理 安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。また透析機器も含めた定期的なメンテナンスによるME機器の保守点検費用の削減及びメーカーによる修理費用の削減を図る。各医療機器の保守管理技術・知識取得のため、メーカーによるメンテナンス講習に参加する。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	外来固定設置機器ラウンドを毎週実施、麻酔器点検を毎月実施を始めた。医療現場で安全に使用できるように努めた。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。購入から10年経過している輸液ポンプ70台の更新を行った。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。兵庫SCU機材の更新。人工呼吸器3台の更新、院内搬送用人工呼吸器1台の更新。除細動器3台の更新。救急外来心電図モニター更新。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。新規ME機器のメンテナンス講習に参加する。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行い、医師との信頼性の向上に努めた。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。整形外科の術中モニタリングを実施した。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行った。人工呼吸器更新に伴い、ICUでの呼吸器使用に向けた調整および勉強会を実施した。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床での医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床での医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
ペースメーカー件数	（件）	96	94	64	55	90	90
心臓カテーテル件数	（件）	52	44	47	41	70	70
入院透析件数（再掲）	（件）	879	1,124	890	1,088	900	900
外来透析件数（再掲）	（件）	6,115	6,536	6,235	5,760	6,000	6,000
臨床工学技士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	5	5	4	4	4	5

No.21 患者満足度の向上

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
意見箱の設置 意見箱を院内数か所に常設し、患者をはじめ来院者に意見や感想を記入いただき、医療サービスの改善に努める。	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上
患者アンケートの実施 1年に数回、入院・外来患者にアンケート記入に協力いただき、サービスの向上を目指す。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
患者アンケート実施回数	(回)	1	1	1	1	1	1
患者アンケートの回答数	(件)	532	357	302	306	400	400
患者アンケートによる改善事項	(件)	3	3	3	3	3	2

No.22　医師・看護師等の確保

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
医師公舎の改修 築年数、老朽度、必要数量を基に、適切な公舎維持を図り、働きやすい環境を整える。	維持継続	長寿命化計画策定	長寿命化計画に基づき、環境を整える。	長寿命化計画に基づき、環境を整える。	長寿命化計画に基づき、環境を整える。	長寿命化計画に基づき、環境を整える。
医師確保 病院機能として必要な専門医等の確保を目指す。						
看護師確保 修学資金制度を継続して実施する。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。						
看護補助者の確保 看護師の勤務環境の改善を進める	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
医師数（各年度3月末現在）	（人）	55	55	56	54	55	56
研修医数（各年度3月末現在）	（人）	13	13	12	12	12	12
看護職員数（各年度3月末現在）	（人）	255	244	233	221	225	230
奨学資金貸与者数	（人）	5	8	4	8	10	10
看護補助者数	（人）	16	17	26	32	32	32

No.23　医療技術職員の確保

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。	→	→	→	→	→	→
医療技術職員の確保 病院機能として必要な専門技術職員等の確保を目指す。新型コロナ感染対策やリハビリの機能の充実のため、薬剤、検査、リハビリ等必要な人員確保を目指す。	→	→	→	→	→	→
	105人	109人	110人	115人	109人	109人

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
診療放射線技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	15	15	14	14	15	15
臨床検査技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	18	19	20	19	19	19
理学療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	16	17	18	18	19	19
作業療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	8	9	10	10	12	12
言語聴覚士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	6	6	5	6	6	6
薬剤師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	18	18	20	19	18	18
管理栄養士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	6	6	6	6	6	6
臨床工学技士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	5	5	4	4	4	5
社会福祉士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	6	6	6	6	6	6
精神保健福祉士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	1	1	1	0	0	0

No.24　医師の働き方改革への対応

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
A水準の維持 ①企画会議・医師会議での周知徹底 ②衛生委員会での勤務時間把握 ③勤怠管理システムの導入	→ 時間数の把握 各会議で周知	→ 勤怠システム導入	→ 時間管理の徹底	→ 時間管理の徹底	→ 時間管理の徹底	→ 時間管理の徹底
宿日直業務の許可取得 宿日直について労基署の許可が得られていないため、許可申請を行い、整理する。	→	→ 労基署相談 申請 許可取得	→ A水準の維持	→ A水準の維持	→ A水準の維持	→ A水準の維持
人材育成【再掲】 看護師や医療技術職員の専門的な研修を受講	→	→ 専門的な研修の受講	→ 専門的な研修の受講	→ 専門的な研修の受講	→ 専門的な研修の受講	→ 専門的な研修の受講
医師事務作業補助者の確保 配備により、医師の事務処理負担の軽減を図る。「医師事務作業補助体制加算30：1」を目指す。	→ 人員確保と人材育成	→ 人員確保と人材育成	→ 人員確保と人材育成	→ 人員確保と人材育成	→ 人員確保と人材育成	→ 人員確保と人材育成

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
医師の時間外労働時間数	（時間）	9,687	10,968	13,926	11,847	11,500	11,000
医師事務作業補助者数	（人）	6	7	10	9	11	11

No.25　医療分析・経営分析に向けた職員の確保

取組内容	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。	→	→	→	→	→	→	→
医療分析・経営分析に向けた職員の確保 病院機能として必要な医療・経営分析職員等の確保を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
医療分析・経営分析 医療分析（EVE）の活用	→	→	→	→	→	→	→

数値目標	単位	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
診療情報管理士数（各年度3月末現在）	（人）	4	4	4	4	4	4	4
医事課専門職員数	（人）	2	2	1	2	3	3	3

No.26　研修・研修制度の充実及び意欲向上

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
院内研修 参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	新型コロナの影響により交通安全研修は中止。	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。
院内・院外発表 院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外の発表会へも積極的な参加を促す。	院内研究発表会2回開催。合計7名の発表。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
院内研修会開催件数							
人権研修	(回)から(参加者数)に変更	WEB 400	ハイブリッド開催 596	ハイブリッド開催 594	ハイブリッド開催 371	ハイブリッド開催 400	ハイブリッド開催 400
接遇研修	(回)から(参加者数)に変更	ハイブリッド開催 400	対面 68 WEB 296	対面 108 WEB 237	ハイブリッド開催 379	ハイブリッド開催 400	ハイブリッド開催 400
交通安全研修	(回)から(参加者数)に変更	中止	329	324	345	400	400
院内・院外発表件数							
院内発表会	(件)	2	2	2	2	2	2
院外発表会	(件)	0	7	5	4	5	5
職員アンケート	(回)	2	2	2	2	2	2
職員提案	(数)	5	5	8	9	10	10
職員提案に改善した事項	(数)	2	2	3	5	2	2

No.27　役割・機能の最適化と連携強化

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
地域医療支援病院の要件維持 患者総合支援センターだよりを発行し、新設科及び院内の診療科や検査、チーム医療等を広報することで紹介率の向上を目指す。	患者総合支援センターだより発行5回／年	患者総合支援センターだより発行6回／年	患者総合支援センターだより発行6回／年	患者総合支援センターだより発行6回／年	患者総合支援センターだより発行6回／年	患者総合支援センターだより発行6回／年
パスによる連携強化 地域連携クリニカルパスによる病診連携の強化を図る。（脳、骨、がん）	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保
地域医療機関との連携 病院及び施設・事業所の訪問、事例検討や講演会等の開催を推進する。	病院・事業所訪問（訪問はWebで計画中）	病院・事業所42件、開業医訪問39件実施	開業医訪問46件実施・病院・事業所訪問41件実施	病院・事業所訪問57件実施 開業医訪問38件	病院・開業医・事業所訪問実施	病院・開業医・事業所訪問実施
入退院支援・調整の充実 入院前から、退院後まで院内外の多職種との連携を密に行うことで、患者家族が安心できる入退院支援や調整を目指す。	MSW2名増員・教育。 院内・外の連携充実。 病院・事業所訪問25件（WEB併用）	院内・外の連携充実。 退院調整専従看護師の育成。 病院・事業所訪問42件	院内・外の連携充実。 退院調整専従看護師の育成。 病院・事業所訪問41件	院内・外の連携充実。 MSW1名増員、教育 病院・事業所訪問57件訪問	院内・外の連携充実。 7月中旬から病院・事業所訪問49件予定	院内・外の連携充実。
地域医療システムの充実 地域医療システム「北はりま絆ネット・おりひめネット」の運用拡大を図る。 オンラインによる多職種連携・情報共有を進める。	「北はりま絆ネット」 公開173件 閲覧55件	「北はりま絆ネット」 公開179件 閲覧38件	「北はりま絆ネット」 公開244件 閲覧67件	「北はりま絆ネット」 公開240件 閲覧72件	「北はりま絆ネット」 公開250件 閲覧72件	「北はりま絆ネット」 公開250件 閲覧72件
在宅療養支援の充実 訪問看護を行う（特定の患者に訪問を実施し、地域のリソースと連携する）在宅療養後方支援対象者を増やす	訪問看護の準備	訪問看護の準備	訪問看護の準備	訪問看護の準備	訪問看護準備	訪問看護準備

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
紹介率	(%)	72.2	81.9	85.8	85.3	80.0	80.0
逆紹介率	(%)	80.7	86.5	87.7	90.1	70.0	70.0
入退院支援加算1	(件)	3,008	3,071	3,096	3,525	3,540	3,540
介護支援連携指導料	(件)	245	371	319	293	336	336
退院時共同指導料2	(件)	78	73	76	58	60	60
地域連携診療計画加算（脳パス）	(件)	82	42	63	25	30	30
地域連携診療計画加算（骨パス）	(件)	82	66	67	79	75	75
がん治療連携計画策定料Ⅰ（がんパス）	(件)	6	13	14	11	13	13
院外者を対象とした研修会、症例検討会、講演会の開催回数	(回)	12	19	15	14	12	12
医師派遣件数	(件)	338	325	242	247	257	257

No.28　地域医療を守る活動の支援

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
病院イベントの開催 地域医療への理解促進を図り、病院の現状、医療の大切さを理解してもらう。また、様々なイベントを通じ、親しまれる開かれた病院づくりを目指す。	コロナの影響によりフェスタを中止。	コロナの影響によりフェスタを中止。	中止	フェスタは実施していないが、院内コンサートを開催した。	院内コンサートを開催	院内コンサートを開催
ボランティアの受入れ ボランティア活動の円滑化及びボランティアの積極的な受け入れによって、患者サービスの充実・向上を図る。市民との交流とともに、地域に信頼される良質な医療の提供に努める。	花壇の植栽ボランティアを受け入れる。	花壇の植栽ボランティアを受け入れる。	花壇の植栽ボランティアを受け入れる。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
病院イベント来場者数	（人）	中止	中止	中止	300	300	300

No.29　情報発信の強化

取組内容	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
ホームページの充実 新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。
広報紙の発行 見やすく、親しみやすい紙面づくりに努める。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。
教室・セミナーの開催 誰もが気軽に参加できる教室やセミナーを企画し、開催する。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。

数値目標	単位	4年度（実績）	5年度（実績）	6年度（実績）	7年度（実績）	8年度	9年度
院内紙（ふれあい通信）	（回）	4	4	2	4	4	4
院外紙（ハートtoハート）	（回）	2	2	2	2	2	2
紀要	（回）	1	1	1	1	1	1